

小田原市市民提案型協働事業(平成26年度実施分)一覧

平成25年7月8日
第1回会議
資料 15-1

No.	事業名	団体名	代表者名	事業目的	総事業費	市の支出	団体の支出	関係課
1	地域安心安全巡回モデル事業	特定非営利活動法人日本犯罪防止事業団神奈川県本部 小田原支部	岩崎 洋一	社会構造・就労構造・ライフスタイルの変化による家庭・地域コミュニティの衰退による、振込め詐欺、窃盗、痴漢行為や不審者、交通マナーの悪化、急学/徘徊青少年問題等により、日々の暮らしの中の安心安全を脅かす事件事故が後を絶たない。 「自らの地域の安全は、自ら守る」の原点に立ち返り、地域住民・自治体・警察・地域事業者の役割分担と協力体制を見直す時期がきている。 地元住民ならではのきめ細く小さなことも見逃さない安心安全な地域コミュニティの維持活動(防犯・青少年補導育成・交通安全)の重要性を強く感じている。 安心安全まちづくりを無償ボランティア活動から、地域の安心安全を守る非営利型公益コミュニティビジネスモデルを構築し、新しい公共としての礎を創る。	1,370,000	1,000,000	370,000	地域安全課 青少年課
2	「駅からガイド」事業	特定非営利活動法人小田原ガイド協会	榎本 保美	・小田原へ観光バスでお出でになるお客様は昨年度は約97,000人、殆どが1時間以内の滞在で市内観光をする方は殆どない。 ・この事業は観光客の市内回遊性を高め「にぎわいのある中心市街地」造り及び市民の小田原再発見の一助とするための事業である。 ・小田原市の自然・歴史・文化を市民や観光客に紹介し、観光振興と文化の継承に寄与し、地域の発展に貢献するには、地域に密着したガイドが必要。 ・現在実施している企画ガイドは、小田原市内とその周辺に及ぶが、中心市街地との地域密着性に欠けるので、これを補う事業である。 ・「駅からガイド」は地域密着型であり、小田原駅をはじめ市内のJR、私鉄駅等への展開を見据え、協働事業でその可能性を探りたい。 ・「街かど博物館」は、有望な観光資源であり、「駅からガイド」で積極的にPRして行き「街かど博物館」の存在を高める一助としたい。 ・天守閣下まで案内することにより天守閣入館者の増加が見込める。	1,350,578	950,978	399,600	観光課
3	市民と共に創る障害者地域交流活動プラザ	特定非営利活動法人サポートKAZE	岡崎 隆	地域交流活動プラザを拠点にして、難病等の慢性・進行性の障害者の社会参加の場となり、障害のあるなしに関わらず、共に学び、共にチャレンジする人のつながりと支えあいのまちづくりのモデルとなることをめざします。 障害者地域活動支援や地域交流は、各方面で行われていますが、難病等の重度障害者が参加する場合は極めて少ない。受入れが難しいことや、個別的なニーズに合わないという状況があり、社会参加や生きがいの実現などの希望が満たされにくい現状です。 近年、障害のある人が、一般社会の中で普通の生活が送れるような条件を整えるべきであるという考え方(ノーマライゼーション)が普及してきており、小田原市においてもノーマライゼーション啓発事業やケアタウン事業が実施されています。 当法人が現在実施しているバリアフリー交流事業はこのような課題に対応し、誰もが孤立せず、社会の一員として迎えられ、支え合いながら共に生きるという精神を共有するプロジェクトを展開してきました。 障害者が幅広い分野の人々と出会い、友好の場となっており、また自然な出会いの中から福祉の課題を他人事ではなく、自分の問題として捉え、共有し、地域の中に身近なサポーターが生まれ、支えあいの輪が広がっています。 地域の福祉やケアタウン事業等との連携により、この事業をさらに拡充することで、身近な場所に障害者が気軽に参加できるようになり、誰もが安心して暮らせるケアタウンおだわらに貢献できるものと考えます。	2,692,000	1,000,000	1,692,000	障がい福祉課 福祉政策課
4	「みんなの居場所、プレイパークづくり」事業	pp@seisho	戸田由紀子	目的・効果:子どもを中心に、地域の人々が安心して、ありのままの自分でいられるように「子どもの育ち」や「遊び」の理解者を増やし、子どもから大人まで、あらゆる人が自分らしくのびのび過ごせる「居場所」を作りたい。 課題:現在、希薄になっている地域住民同士の繋がりを取り戻し、異世代同士を繋ぐ役割や、地域の活性化にも繋げていきたい。 達成:定期開催することで、子ども達の豊かな育ちに「遊び」の必要性が理解され、地域で、地域住民により自主的なプレイパークが立ち上がっていくこと。	749,000	665,000	84,000	子育て政策課 みどり公園課

5	海岸の普及に関する事業	特定非営利活動法人海のネットワーク	池谷 真一	<p>現在、神奈川県内の海岸では数多くのサーフィンクラブが設立されている中、私たちは海を中心としたスポーツ振興、海の清掃、海の安全、海での自然学習をお互いに切磋琢磨し、市民へのスポーツの振興と海岸での安全、環境保全に励んでおります。また、月1回のクラブ員及び一般市民参加型のビーチクリーンは30年間継続しており、この事はクラブ員のみならず一般市民の交流の場となっております。</p> <p>同時にこれらの取り組みは、クラブ員、一般市民及び観光客の、海での安全、マナーの学習、非常時の対応の学習となっております。</p> <p>更に近年では、海岸でのウミガメの産卵、クジラ、イルカの海岸接岸などを通じて自然の豊かさを学び、車泊ブーム等によるゴミの不法投棄についての勉強をし、併せてビーチクリーンなどによる活動を行っています。また、震災の影響から、私たちは、海岸での非常時の避難方法など、一般の生活では得られない海岸を通じての学習の場や憩いの場づくりが必要であると考えます。</p> <p>今後この活動を確かなものとし定着させるためには、あらゆる方(障害者、高齢者など健全者ではない方も含めて)が安心して海岸を憩いの場、学習の場として利用できる環境づくりを推進するとともに、講習会や講演会の指導者の育成形成、そしてその活動を支援するサポーターを含めた輪づくり、交流の場づくりが重要であると考えます。更には、海岸でのスポーツ振興による健康維持、ストレス発散等による一般市民の健康維持に寄与するとともに、「憩いの場」に興味を持つ、より多くの地域住民の参画を受け入れ、地域に住むあらゆる方が相互に交流できるような、健康で楽しく長生きできるしっかりとした枠組みをつくる事が必要であると考えます。</p> <p>以上のことをふまえ、私たちは強固な組織基盤のもと、地域住民や地元自治体、競技団体と連携、協同しながら海を中心としたスポーツ振興、清掃、安全、学習のための公益的で継続性のある、海を中心としたスポーツ振興、海の清掃、海の安全講習、海での自然学習教室を開催するとともに、施設の管理、整備も担っていきたくと考えています。また、地域住民の、心身の健全な発達と健康で明るい憩いの場となる街づくりに寄与することを目的とします。</p>	2,834,200	727,200	2,107,000	スポーツ課 水産海浜課 環境保護課 防災対策課 警防計画課
6	食育を通し地域ぐるみで取り組む青少年健全育成	特定非営利活動法人命を大切にす小田原を創る会	椎野 典子	<p>社会の変動が激しい中、学校や地域の生活に適応しにくい子供たちが増加している。小田原市内においても学校や親に対する敬意の念が乏しく、校舎の破損など忌々しき問題が発生してしる。原因はいろいろあるが「命を大切にす小田原を創る会」では、生徒たちがどのような家庭環境の中で、又どのような食生活をしているのか、食育の大切さと意義を知らせるために、教育者である教師とPTAを対象に「農医連携」に関する講演会を実施する。</p> <p>学校教育現場においては教師から生徒へ、生徒においては親から子供へ食育の大切さを伝えることができる。自然と地球環境保全を背景にした「農医連携」に基づく教育活動を通して、青少年をはじめ世代を超え“心身共に健康な人づくり・街づくり”を推進する。既に、日本の各地で農(生産)と食(調理)による心身の癒しと健康づくり、さらに子供たちが「いのち」を学び豊かな心や、欠如しがちな社会生活をはぐくむ生きた事例(福島県・新潟県)が輝き始めている。小田原市にも素晴らしい実証例があり生活習慣病改善を図る手立てとする。学校・家庭・地域において生活習慣病の改善と心身ともに健康で明るい豊かな人と地域が実現し、ひいては幼少から農医連携を基本とした“食育科目”を小田原市全校に設定し、小田原市が全国の健康モデル都市への切り口事業となるように推進したい。</p> <p>教師から生徒、母親から子供と話し合うことによりコミュニケーションが生まれ、食に対する関心を深めることができる。講演会の前後に市内の中学生又参加者からもアンケートを取ることで、現状の食生活を含め生活状況を知ることが、学校・家庭・生徒の連携により地域ぐるみで、食の大切さに取り組み、健康で豊かな心を持つ子供たちを育成する。</p> <p>小田原市の地域全体に食育教育を浸透させる大きな目的を持つ。</p>	670,000	560,000	110,000	教育指導課 健康づくり課 保健給食課
7	外国出身者への日本語指導及び教育支援	日本語教室いろはの会	西村 敏秋	<p>小田原市に在住する外国出身者への日本語指導の充実化と外国出身者子弟への教育支援およびこれらの活動に参加できるボランティアの養成を主たる目的とする。</p> <p>日本語の理解度向上を早め、日本社会により早く溶け込みたい、就労の機会を増やしたい、より質の高い仕事に就きたい、研修生にあっては、滞在が短期であるが故に、早くコミュニケーション能力を高めて研修の成果を上げたい、等々近年外国出身者の日本語学習意欲は高まっている。外国出身者の子弟については、言葉が障害となって学習意欲に欠ける、学習効果が上がらない、進学時の手助けが必要などのケースが見られる。</p> <p>これらの問題を解決するためには、これらの問題に関心を持つ、意欲のある優秀なボランティアの養成、確保が欠かせない。同時に、この事業を推進するためには安定して利用できる活動施設の確保が大きな課題である。</p> <p>小田原市には約1700人の外国籍の人が住む。彼らが日本人と同等の生活の質、就労の機会、教育を受ける機会が得られるようこれまでの活動をさらに充実させていきたい。本事業は国際交流の場としての機能も期待できる。</p>	742,900	442,400	300,500	人権・男女共同参画課 文化政策課

8	おばあちゃんの家のような家庭環境再現型学童保育事業	学童保育所 NEST	小島 順子	<p>保護者の様々な事情から、放課後の子どもらしい時間を過ごせない就学児童に対して、保護者世帯に変わり、よき時代の家庭的なくつろげる子どもの生活空間を提供し、豊かな子ども時代を再現することにより、児童の健全な成長を支援することを目的とします。</p> <p>・家庭内の様々な事情(保護者の就業、離婚等)から健全な子ども時代を送る環境にない就学児童が増加しています。それは、子育てにおける「愛着」の不足や本来通過すべき体験を奪い、将来ある児童の正しい成長を阻害していることも多々見受けられます。</p> <p>・また、小学校では放課後の児童の居場所を提供するため学童保育事業が行われていますが、入所には一定の条件があり、養育を必要とする児童のすべてが等しく保育を受けられる状況にはありません。</p> <p>・就学後の児童期は、幼少期に形成されなかった「愛着」や獲得できなかった体験を獲得できる最後の岩といっても過言ではありません。</p> <p>・そこで、昔ながらの“当たり前だった”子育て環境を再現し、教育的配慮を行うことで、次世代を担う児童に、放課後の家庭的な生活空間を提供し、健全な成長を支援するものです。</p>	3,150,000	795,000	2,355,000	青少年課 子育て政策課 教育総務課
9	間伐材引き出し・活用・減災事業	特定非営利活動法人子どもと生活文化協会	渡邊 博之	<p>小田原市内山林に放置されている間伐材の引き出しとその材の資源活用をすることによって、環境保全と若者の就労という二つの課題解決に取り組む。現在、かながわ水源の森林づくり事業(神奈川県)等の間伐で生じた丸太のほとんどが、小田原市内山林にそのまま放置されている状況にある。間伐材をそのままにしている状態ではCO2の排出、下草が生えず根がないために起こりやすくなる土砂流出などの危険性が高くなると言われている。そして昨今頻発している揺れの大きい地震やゲリラ豪雨等が起こった場合、丸太(倒木状態)流出する可能性もある。</p> <p>また、当協会では長年にわたり若者の問題(ひきこもり、若年無業者等)に取り組んできたが、若者の多くは人や社会との関係がとれない、自信がない等で自立に一步踏み出せないでいる。</p> <p>この事業では放置したままでは危険な間伐材の引き出し作業、引き出し後に加工(薪作り等)し、再利用化すること、この作業を未・不就労の若者の働く体験の場、地域とのつながりの場とすることで二つの課題解決に取り組む。</p> <p>①間伐材の放置によって引き起こされるであろう二次災害を未然に防ぎ減災につなげる。</p> <p>②間伐材を搬出し、下草の生えるきれいな森をつくる。</p> <p>③市民の参加、協力を募り、環境、防災、子ども・若者の課題について理解を深めてもらう機会とする。</p> <p>④中学生、高校生、大学生等への山林体験を行ない、次世代への環境保全活動の継承を図る。また将来の小田原の市民活動の担い手、リーダーとなる人材育成につなげる。</p> <p>⑤身近に参加できるプログラムと勉強会や交流会を行い、市民自治意識をたかめる。</p> <p>⑥若者の働く体験、多様な年代、立場の人と触れあえるコミュニティづくりにもつながる。</p>	1,285,770	1,000,000	285,770	農政課 産業政策課 環境政策課 青少年課
10	小田原グリーンプロジェクト	下府中コミュニティShin2	原 照夫	<p>小田原市が校庭芝生化を試行し始めてから5年がたちます。数々の賛否や議論がなされる中、第5次総合計画そして教育振興基本計画の教育環境の整備に校庭芝生化の推進が掲げられております。鳥取方式という芝生化が話題になって以降多くの市町村で小田原同様に芝生化の気運が高まり同様の挑戦を行っておりますが、小田原市のように全面的な芝生化が順調に進んでいるところは多くありません。</p> <p>芝生化が与える効果は、数多くその効果があると考えられたので教育振興基本計画に掲げられたのだと思います。ただこれを進めていくうえで問題点が数多くあるのも現実です。校庭芝生化を進めていく際の最大のデメリットは、維持管理は、だれが責任を持ってやっていくのか? どこでもこのことが問われます。下府中コミュニティShin2では、このデメリットこそが最大のメリットだと考えています。</p> <p>《スクールコミュニティ》学校を中心に地域社会の活性化を図ろうという考え方は、小田原市のまちづくりの基本的な考え方だと思います。</p> <p>青少年健全育成と地域活性化を同時に具体的に進めていく手法として校庭園庭芝生化があります。</p> <p>シルバー人材の地域社会貢献の活動の場 若い親世代の子供と共に学ぶ共育の実践の場として、ここで生まれる世代間交流こそが校庭芝生化の目的だと考えます。</p> <p>《新しい公共をつくる》</p> <p>数年前地市では、(すぐやる課)などがあり行政がお願いをすれば何でもやってくれる時代がありました。緊縮財政のなか限られた教育予算を芝生化にかけようとする可否は、当然のように問われると思います。鳥取方式は、芝生化のなかでも今までの芝生化にはない新しい芝生化です。そこに開く多くの人たちに生きる力や学ぶことの大切さを感じさせてくれる芝生化です。新たなことに大人も子供も先生もみんなが考え学ぶ芝生化です。みんなの使う校庭をみんなで育て管理していくこの体験は、新しい公共を作っていく心基礎になります。</p> <p>《豊かな地域資源を生かす》</p> <p>地域資源とは、ものではなく人でもあると思います。郷土を愛する子ども達の育成には、まちや地域を愛する大人たちの存在が必然です。この地域愛、郷土愛こそが豊かな地域資源だと考えます。この地域資源を掘り起こす手段に校庭芝生化があります。</p> <p>《未来に向かって持続可能》</p> <p>未来を変える苗を植えよう 未来を変える種をまこう 小田原グリーンプロジェクトの掲げるテーマです。</p> <p>地域や子ども達の活動を足元から継続的に支えてゆく校庭芝生化は、学校教育活動や社会教育活動を開く人たちが自ら考え実践する場として築かれ育まれ守られていくに違いないと思います。心と身(からだ)を育む環境 Shin2(シンシン)が求める人が育つ環境がそこにあります。</p>	1,250,000	1,000,000	250,000	教育総務課

計 16,094,448 8,140,578 7,953,870